

平成31年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和2年4月30日現在

研究課題名	ロシアにおける中央アジア概念の背景：18世紀の地理認識をさぐる	
申請者	氏名	所属機関・職
	木村 暁	東京外国語大学・特任講師

研究成果の概要

夏季に1回（2019年6月4日～6日）と冬季に1回（2020年1月7日～11日）、北海道大学に研究出張をおこない、当該研究課題に深く関係する史資料コレクション、「18世紀ロシア研究叢書」（北大図書館所蔵；マイクロフィッシュ）の閲覧調査に従事した。限られた時間のなかでの調査ではあったが、以下のような成果が得られた。

F. PoluninとV. N. Tatishchevの編纂になる二種の地名辞典をおもな史料としてつぶさに検討した結果、まだこの頃のロシア語地理語彙のなかでは中央アジアという概念が実用されていないこと、18世紀後半がロシアにおけるアジアとヨーロッパの境界認識が変化するちょうど過渡期に当たっていたことが確認できた。同時に、現代の中央アジアに相当する領域に関する地理認識には曖昧な部分や誤謬が散見されるとともに、時代に独特の地理的な分類や区分がなされていた形跡があることも確認できた。たとえば、ブハラが「東北アジア」の国として説明される記述なども見いだされた。このほか、瞥見した18世紀末のロシア語定期刊行物（『政治雑誌』等）の記述からは、ドイツ語やフランス語、英語などで出版された西欧諸国の近刊文献からの翻訳や引用記事が多くみられ、それはロシアにおけるアジア認識の変化とも多少なりとも関連していそうなことが推察された。

夏季の調査の成果の一部については2019年7月におこなった口頭の研究報告のなかで公表した。当該研究課題には今後も継続して取り組み、対象範囲を空間的にも時間的にも広げながら研究を深化させたい。そのなかで、中央アジア概念の淵源と歴史的展開について現在執筆中の論文を公表し、当該研究課題から得られた成果についても、これを世に問うていく考えである。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

【研究発表】木村暁「ムッラー・アーリムの歴史叙述におけるトルキスタン」AA 研共同利用・共同研究課題「近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照」2019年度第2回研究会／第43回中央ユーラシア研究会（共催）、東京外国語大学、2019年7月27日。

【研究発表】木村暁「中央アジア概念から世界史記述を考える」2019年度東京外国語大学世界史セミナー、東京外国語大学、2019年7月24日。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

今のところ応募中のものはないが、応募を計画中。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。